邯鄲

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-001
国立国会図書館

次ガ

淺茅乃宿乃庵ようひきそぐ（下上八九）

（下上サ）

茅陰をのがれぬさきたあせ　是い

蜀乃國のうとりゞ靈まと

のくへぶもゝなるまぶ人百にあるま（詞上九）

なゝ俤乃をもゝ袖のりしだゝ

（下）

相思と吟ゝ——皆乃たゝわなるま

ゞ出ゝや聖國乃やまひきまる

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-002
国立国会図書館

ゞ法と衆会識乃まゝまゝ由
所及てハ祖よゞ身社一大すをも
見りや必思ひがけなやまひさを
へとゆう衆俊（上に行）住ホ社園を
雲路より絶よりそゞぐ山み山越
越ゆけうこと（下に）もかゝ旅衣
野ゝ社山皆里ゝ社てゞよ乃見

ゆ一邯鄲の里（下に）も平生慕よ
ゝわゝ（下に）（上に）
秋ハ見なゝ風をきゝ
及一邯鄲乃枕明る夢ゝ思ハ
身我志ホ門出ゝ世乃志ゝ社見ホ
夢ゝ若ゞ夫乃あゝしゝ（上に）ゝ法さゝ法
夏一一ホ商乃あ下宿つゞく
ハゝまゝ殘ホ中宿ゝ社湯

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-003
国立国会図書館

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-004
国立国会図書館

ニニハ　一一一

思ひ入て　夫ゆもあうる
心地して　西乃海嶽よ乃わ好
ゆ　上三の月し
ゆ　ゆ　ゆ　

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-006
国立国会図書館

はるの宴乃数を尽くしてさけ酒
ぐ乃百乃りもあらぬ乃
とめ光地よ光くさ籟乃聲も
かひたくしくひかり小
三十餘丈よ志波うち乃山を
はうぎてハ蓋乃日輪を出さ祢
たわ 而小三十餘丈よ 蓋乃

やさをはうぎてハ志波うち乃
月輪を以さ祢うだとへを
く祢ハ長生殿乃裏ハ春秋を
留たわ不老つのおりをば月
を一心を以り祢うわ

青
以さ祢ハ春ハ春乃ふ乃ひ波位よ
はるの野ひてをりや五十年ぬわ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ぜいこうより仙藥をなきめさせ
ばせ一ぱいを愛まつりたもちたまふ
あるじ殿ほと小天乃こせたる
かうりいのを以ぞまそもちて
まいるまたわ天乃こ初たる
ゆるいこ祝仙京の酒なるを
かまの以乃をいいぞ中事を

一同ゆ仙京乃愛なるを一寿命ハ
千世そときく以きけ一榮華ハ
けるもよ孫たと一君も安小
ここ一月こ一民榮へ國玄安全も久乃ぐ
榮花も孫增よなれるこひい
庵さアのこくさ以ぎく乃さくはる
いこ元こトこ
とるまくり以をやはまふよ

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-007
国立国会図書館

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-008
国立国会図書館

第下

色〻社やさのぼるぶく流ハ
きゝはいかぶるうりひゝ社て
とゝはいゝ社ぐ色まのぼさゝへ業ハ
業ゝゝ社も社ぶ弟乃疾を凝して
きはもひゝゝもひゝわな社や意ぶ
うけぶめゝゝふろゝ老ひゝゝ業
上
ハ新富乃くぐきゝぶきゝ霞ゝふ

出ゝにゝゝよハもわてぬちゝ
なふゝゝゝどもハきゝく藥ぶ
水もハハ色な社をぶめせく
ハやまゝ小出ハ業水を乃めハ
甘霞もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝも
ゝ社やゝふ悪ゝゝわゝハぶ
よふひハゝゝた乃ゝ色ふ

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-009
国立国会図書館

ゝゝゝ

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-010
国立国会図書館

ひさしく世をぐ〻ぞ十年に栄華も
はかなくて下さくハ雲乃ゆくへ絶て
ハ三五こゝ一ハ
皆消くゆく雲さそくあるとは
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
枕頭乃花ゝ色よ眠乃ゆめを
上花 ゝゝゝゝ 三ツ上 ゝゝ
覚よくわ 盧生の夢覚て〻
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
五十ゝ秋乃栄花も色よたゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
相逢と思きあるとて 三上 きりわ

上花 ゝゝゝゝ 上花 ゝゝゝゝ
思はゝ星 女郎更衣乃袖と
ゝゝゝゝ 三ツ上 ゝゝゝゝ
きゝ〻 三ツ上 ゝゝゝゝ 三ツ上 ゝゝゝゝ
上花 ゝゝゝゝ 三ツ上 ゝゝゝゝ 三ツ上 ゝゝゝゝ
宮殿楼閣ハ 炊郎鄲乃枕の雲
上花 ゝゝゝゝ 三ツ上 ゝゝゝゝ 上花 ゝゝゝゝ
栄ゝ乃袖を 五十年 枕屋乃
ゝゝゝゝ 三ツ上 ゝゝゝゝ
月ハ栗飯乃 炊乃月なわ
上花 ゝゝゝゝ
不思議なわやゝ〻わ
三ツ上 ゝゝゝゝ
佳人習乃あるさ下を栄しるゝ

百年の歡樂も永劫をゝ祈る事
しゝ五十年榮花さぐ乃
ゝゝゝ

国立国会図書館

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-012

国立国会図書館

[謡本] 邯鄲 1冊 WA7- 028-013
国立国会図書館